

第5回 市長と話そう会（菅牟田区）

日 時 平成29年4月14日（金）

19:00～20:20

場 所 菅牟田公民館

参加者 菅牟田区民 18名



市民の皆さまと市長が直接語り合う『市長と話そう会』第5回目は、菅牟田区民の皆さんとの意見交換でした。

まず、市長から市政について話をし、その後、多数、活発な意見をいただきました。

内容を抜粋して掲載しております。

《掲載にあたり、一部個人のプライバシーに関する部分などについては省略しております》

市長より

菅牟田区は水がきれいで、地元の力で水公園をつくり、川まつりが始まった。ここにしかないものを活かす、地元の力で作りだしたところが素晴らしい。キャンプ場も周囲に何も無いということは、星空が綺麗だということはここにしかないこと。昨年、宇宙科学館と組んで実施した星空観測会には40名の方が参加された。この星空は人を呼べるものなので、これからの地域づくりにつながる。ここにしかないものを活かし、他と差別化し、まずは交流人口を増やす。ここにしかないものを尖らせて、情報発信し交流人口を増やしていけばおもしろい。

若木町は大楠公園スケッチ大会、ジラカンス桜、永野の風穴、川まつりなど、自分たちの地域にある資源を大切に活かし、再発見して多くの方に見てもらおうとする若木の街づくりは素晴らしい。他町も含め町の特徴を活かしたまちづくりを打ち出し情報発信していくのがいい。

市はみなさんが作りあげていく地域で頑張る人たちを応援するため事業を後押し支援していく。現状をピンチでなくチャンスと考えてほしい。

意見交換

（区長）

さまざまな機関の力も借りて、水などの資源を活かして人にきてもらえるように菅牟田までの道中の整備にも力を入れている。ここに集まる者が力を合わせればいろんなことをまだ10年はやっていると考えている。

（区長）

先ほどの市長の話の中に交流人口と言われたが、すぐに人が増えることは考えられないが、水公園を整備したら水を汲みに来る人がいて、サイクリングに来る人も出てきた。今後は眉山までの道路を整備して環境作りが大事。

(市長)

いきなり移住するのはそこを知っている人。川まつりに来る、水を汲みに来る、キャンプに来るなどで交流人口を増やし、移住に繋げるきっかけ作りが大切。ここにしかない綺麗な水、綺麗な星空を発信したら、関心のある人たちが来て、その人たちを引きつけて移住に繋げていく。移住1%戦略、100人のまちで人口を維持していくためには毎年1人を増やせばよい。ここなら2年で1人増やすことを考えれば人口を維持でき、2人来れば増えると考えれば区の今後の道にもなる。

(区民)

眉山キャンプ場をオートキャンプ場にしたらいい。見方、考え方を変えて、自転車好きには綺麗な道がいいが、現状は車でないと無理なので道路整備もしてほしい。

(市長)

まず、水まつりの日にオートキャンプ場を開いて情報発信したらどうか。星空を見てもらい、ネット配信してもらえれば、それを見た人がまた来るとその繰り返しになればいい。

(区民)

眉山キャンプ場にはわらび、たけのこの等の産物があるので、菅牟田区で弁当を作り、ネット注文を取り弁当を食べてもらい、ここの良さを知ってもらおうのはどうか。

(市長)

川まつりでオートキャンプに来られる方は自然を求めている方々。湧水で冷やしたスイカ、トマトは最高のご馳走になる。来た人たちがここはいいと感じるのは、まずは人。来られた方と地元の方との交流が次につながる。永野の風穴で振る舞われたカレーが美味しいとネットで拡がり、来る人が増えた。食べ物が引きつける力はすごい。

(区民)

移住した人が野菜を作り、生活できるような道の駅みたいなものを作ってほしい。若木では野菜作りをしている人が多いので、生産する意欲を持たせるような仕組みを作り、若木で生産したものを若木で売れるようにしてほしい。

(市長)

若木のを若木で売ると言えば大楠公園がある。ライトアップして人も増えている。新しいものを作るのもいいが、今あるものをもっとうまく情報発信していくことがいい。

(区民)

道の駅はすべて道路沿いにあるが、大楠公園は少し入りこんでいる。駐車場にショップを作り、大楠公園へ誘導するしゅっくりしてもらおうのがいい。魅力があれば人は来る。どこをどう売り出していくかが大事だと思う。

(市長)

何を魅力とするかだと思う。一つ、これは！というものを売り出すのもいい。